

6 個人カルテの活用の仕方

【目的】

- ・児童生徒が自分自身の学習状況をとらえ、その改善点を自覚して、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- ・教師が一人一人の学習状況を的確にとらえ、個に応じた指導の充実を図ることができるようにする。

【活用の仕方（例）】

教師は、調査問題の正答・誤答の状況やカルテに表示された各項目の達成状況（「よく身につけていること」「さらに身につけるとよいこと」等）をもとに、一人一人の児童生徒に応じたアドバイスを個人カルテの「担任の先生から」に記入する。

教師は、調査問題用紙を児童生徒に返却する際に、「個人カルテ」を配布して、調査結果を今後の学習に効果的に生かしていくことができるようにする。

そのために、次のように児童生徒と懇談する。

- ・各教科の各項目ごとの学習状況を説明する。
- ・各項目（観点）が具体的にどのような力なのか、身に付いた具体的な姿とはどのようなものなのかについて説明し、児童生徒がめざす姿をとらえることができるようにする。
- ・正答や誤答の要因を聞き取り、これまでの学習のよさを価値付けたり、今後の学習のポイントを具体的に示したりする。

保護者や児童生徒との個別懇談の際には、「個人カルテ」と「意識調査」の結果を関連させて示し、家庭などにおける生活や学習の改善を図っていくことができるようにする。

その際、次のような点から、保護者、児童生徒と懇談する。

家庭、地域における生活

- ・望ましい食生活や健康的な生活（就寝時刻等）について
- ・家庭における学習習慣について（1日の学習時間、予習や復習の仕方など）
- ・学習の準備、見通しのもち方について
- ・家族とのコミュニケーションや手伝いの様子について
- ・家庭での読書や休日の過ごし方について
- ・地域の行事とのかかわりについて

児童生徒の自分自身に対する意識や学校生活

- ・児童生徒のよさ、将来の夢や希望について
- ・規範意識について
- ・いじめ問題について
- ・勉強や学校の授業に対する意識や様子について

意識調査の結果と学力との相関関係についてふれながら、今後の改善点を示唆していく。

保護者に「個人カルテ」の中に児童生徒に対する励ましの言葉等を書いてもらうようにするなど、個人カルテをもとに家庭内でこれからの学習や生活についての話し合いが行われるような働きかけをする。

各学校において、個人カルテを活用した指導の在り方についての校内研修を行い、児童生徒の学習状況を継続的に見届け、一人一人の学力や学習状況に応じた授業の工夫改善を一層進めていくことができるようにする。